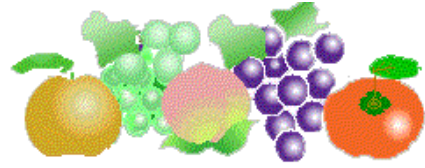


# 令和4年度 しらかわ果樹情報第6号



令和4年7月26日  
福島県県南農林事務所農業振興普及部

## 1 気象概況（表1）

7月2半旬から7月5半旬までの平均気温は22.9℃で平年より0.3℃高くなりました。また、この期間の降水量は102.0mmで平年の78.8%、日照時間は48.3時間で平年の80.8%となりました。

表1 月別気象表（白河市）

平年：1981～2010年

月	半旬	平均気温（℃）			最高気温（℃）			最低気温（℃）			降水量（mm）			日照時間（hr）		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比（%）	本年	平年	平年比（%）
7	2	23.0	22.0	1.0	27.7	26.5	1.2	19.8	18.5	1.3	10.0	41.4	24	22.6	18.4	123
	3	22.4	22.4	0.0	25.7	27.0	-1.3	20.5	19.0	1.5	76.5	42.8	179	8.6	18.5	46
	4	23.5	22.8	0.7	27.5	27.5	0.0	20.3	19.4	0.9	9.5	38.2	25	15.9	18.9	84
	5	22.8	23.2	-0.4	27.9	27.9	0.0	18.3	19.6	-1.3	6.0	7.0	86	1.2	4.0	30
平均・合計		22.9	22.6	0.3	27.2	27.2	0.0	19.7	19.1	0.6	102.0	129.4	78.8	48.3	59.8	80.8

## 2 向こう1か月の天候の見通し（7月23日から8月22日まで）

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高くなる見込みです。高気圧に覆われやすいため、向こう1ヶ月の日照時間は平年並か多い見込みです。週別の気温は、1週目（7/23～7/29）は高い確率が50%、2週目（7/30～8/5）は高い確率が50%、3～4週目（8/6～8/19）は平年並か高い確率が40%です。

## 3 生育概況：果実肥大（白河地方）

満開後日数比較では、平年と比較して「幸水」では小さく、「ふじ」ではやや小さく、その他の品種は平年並の状況です。

表2 白河管内の各品目の果実肥大状況（7月15日時点）

	あかつき		幸水		豊水		ふじ	
	縦径	側径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径
今年（mm）	54.4	55.9	35.6	41.5	37.6	40.1	45.0	50.6
平年（mm）	50.5	50.9	37.6	44.2	37.1	40.0	47.0	51.6
平年比（%）	108	110	95	94	101	100	96	98
昨年（mm）	69.4	77.3	38.3	44.3	40.4	44.6	47.9	55.7

注）調査地点：「あかつき」「幸水」「豊水」は白河市東上野出島、「ふじ」は白河市本沼

## 4 栽培上の留意点

### （1）共通（梅雨期の降水量が少なかったため、土壌水分の把握に努めましょう！）

#### ア 土壌の水分管理

夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度のため、**1回のかん水は25～30mm程度（10a当たり25～30**

t) を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

一方、土壌が過湿条件にあると、葉の褐変や黄変落葉を引き起こす原因となるので、**雨が続き園地で停滞水が発生する場合は、排水対策を徹底**しましょう。また、**落葉が見られる場合は着果量の見直し**を行いましょ。

イ 草刈り、マルチ

**樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょ**（地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます）。また、稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょ。

(2) モモ

ア 早生品種の収穫

- ・今年**は核や胚に障害を持つ果実が多い**。これらは**成熟が早まりやすい傾向にあるため、果肉の軟化に注意し、収穫が遅れないように留意する**。

イ 中生品種の収穫前管理

- ・白河地方では、「あかつき」の**収穫開始日は7月31日頃、収穫盛期日は8月3日頃で平年より5日早いと推測される**。
- ・核障害の発生が多い場合には、**核や胚に障害を持つ果実は早熟する傾向にある**。
- ・現在、**果樹研究所内の「あかつき」は着色期に入っている**。これ以降の品種についても、夏季せん定、支柱立てや枝吊り、反射シートの設置など**収穫前の管理が遅れないよう計画的に実施する**。
- ・**降雨により園内に停滞水がみられる場合は、明きよを掘る**など速やかな排水を心がける。

(3) ナシ

ア 新梢管理

- ・不定芽新梢を含めた新梢誘引は、樹冠内の光条件を改善するとともに、薬剤防除の散布むら減らし、翌春における長果枝棚付け作業の効率化も期待できるので積極的に実施する。**特に「豊水」の新梢は、湾曲、下垂しやすいため、誘引により方向を整える**。

イ 修正摘果

- ・果樹研究所での「幸水」の**裂果は7月19日（満開89日後、平年より5日遅い）に確認された**。平年と比べて**裂果期が不明瞭であるため、修正摘果は8月から実施予定**。  
→白河地方でも**裂果時期は同様と予想されるため、摘果時期も同様が望ましい**。
- ・摘果対象となる果実（**裂果、変形が著しい、果点コルク間の地色が薄い（肥大が停滞しやすい）及び満開後100日頃の横径が60mm未満のもの**）を整理し、**適正着果に努める**。
- ・「豊水」は満開後 100日頃を目安に**小玉果と変形果を摘果する**。

(4) リンゴ

ア 修正摘果

- ・果実肥大や果形、障害の有無等の区別が**つきやすい時期**なので、**小玉果、変形果、病害虫被害果、サビ果を中心に修正摘果を実施する**。
- ・特に、霜害を受けて摘果を遅らせていた園地では、仕上げ摘果実施後でも**新梢の伸びや葉数に注意し、適正着果となるよう調整する**。

## イ 枝吊り・支柱立て

- ・果実肥大に伴い枝が下垂するので、樹冠内部の日当たり改善と枝折れ防止のため行う。
- ・高温条件下では、果実に直射日光が当たると日焼け果が発生しやすくなるため、果実が果そう葉で隠れるようにするなど着果位置に留意する。

### (5) ブドウ

## ア 着房管理

- ・ぶどうの着色始めは、果房中のいくつかの果粒が飛び玉状に濃く着色するのが望ましい。全体的にぼんやりと色がまわってくる場合は、着果過多による影響と考えられるため、早急に着房数の見直しを行う。また、着色期の日照不足も着色不良を招くため、込み合っている部分の新梢の整理を併せて行う。
- ・着房過多は、糖度上昇の遅れや赤熟れ果の発生の要因となる。また、耐寒性の低下や翌年の発芽不良、樹勢の低下などにも影響する。
- ・長梢せん定樹の最終着房数の目安は「キャンベル・アーリー」では3.3m<sup>2</sup>当たり22～23房、「巨峰」では9～10房とする。
- ・特に、夏季に低温・日照不足が続く場合には、着房数の制限が必要である。

## イ 新梢管理

- ・新梢が遅伸びすると、光合成により生産された養分は新梢の伸長に消費され、果実への転流が少なくなるため、7月下旬～8月上旬頃に、伸長が停止していない新梢を摘心する。摘心は、新梢先端の生長点を軽く摘む程度に行うと副梢の発生が少ない傾向にある。伸長が停止しない副梢は2～3葉残して摘心する。伸長が停止しそうな弱い副梢は棚面が混み合わなければ、そのまま放置する。
- ・摘心後も棚下が暗い場合は、徒長的な新梢を中心に、新梢の間引きを行う。このとき、間引く本数は必要最小限にとどめるように注意する。

### (6) ひょう害対策（※事前・被害後対策はしらかわ果樹情報第4号参照）

6月2日、3日の降ひょうにより県内各地で被害が出ています。今後もひょうが降る可能性は十分にあります。ひょうは①大気の状態が不安定になり②積乱雲が発達したときに降りやすいです。また、降ひょうがあった場合は、被害の程度に応じた着果管理や新梢管理を適切に行い、生育の回復に努めることとなります。

着果量は果実や新梢、葉の損傷程度から判断します。被害程度が軽い場合は、摘果を強く行うと樹勢が強くなるため、被害程度の軽い果実は適宜残して、樹勢の調節を図ります。

## 5 病虫害防除上の留意点

【収穫期に入っているため、薬剤防除は収穫前日数に十分注意しましょう！】

### (1) 病害

#### ア ナシ黒星病、輪紋病（添付資料：「令和4年度果樹情報特別号」参照）

- ・7月下旬の県中・県南におけるナシ黒星病の新梢葉及び果実での発生ほ場割合は平年より高い状況にあるため、罹病部位は見つけしだい取り除くなど、耕種的防除を徹底する。
- ・罹病部は見つけしだい除去して適切に処分するとともに、輪紋病も重点防除期になるため、7月下旬に両病害に効果がある殺菌剤を十分量散布する。

#### イ モモせん孔細菌病

- ・管内で果実への感染が確認されている。晩生種で発生が多い場合には、マイコシールド（2,000倍）を散布する。本剤は使用時期が収穫21日前までのため収穫前日数に注意するとともに、成分回数（オキシテトラサイクリン、散布、5回）を確認の上使用する。
- ・罹病部は二次伝染源となるため、見つけしだいせん除して適切に処分するなど、耕種的防除を徹底する。

ウ リンゴ褐斑病、輪紋病

- ・褐斑病は7月中旬以降が二次感染期となるため、薬剤散布を10日間隔で実施し、感染拡大を防止する。輪紋病または炭疽病の発生が多い園地では、防除暦に従い防除を実施する。
- ・炭疽病の発生を抑制するため、園地周辺のニセアカシア、シナノグルミ、イタチハギなどの伝染源植物を除去する。

(2) 虫害 ※表3・4参照、時期は果樹研究所における推定

ア モモハモグリガ

- ・第4世代幼虫の防除適期は、気温が平年並に推移した場合、7月5半旬頃と推定(表3)。
- ・第5世代幼虫の防除適期は、気温が平年並に推移した場合、8月2半旬頃と推定。
- ・本種の発生は、放任園や無防除のハナモモ等が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣にある園地では、今後も発生に注意する。

イ ナシヒメシンクイ

- ・第3世代幼虫の防除適期は、気温が平年並に推移した場合、7月6半旬頃と推定(表4)。
- ・第4世代幼虫の防除適期は、今後気温が平年並に推移した場合、8月4半旬頃と推定。
- ・本種は第3世代からナシ果実への寄生が増加する。**例年、ナシの果実被害が多い地域では、近隣のモモ園の芯折れを注視し、第3世代幼虫以降の防除を徹底する。**

ウ ハダニ類

- ・高温が続く場合はハダニ類の急増に注意し、殺ダニ剤の散布は草刈り直後に行う。要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)の密度になったら速やかに防除を行う。

エ カメムシ類

- ・新成虫が発生する時期。**山間部及び山沿いの園地では、カメムシ類の被害を受けやすいので、飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行う。**

表3 果樹研究所における防除時期の決定(令和4年7月14日現在)

今後の気温予測	モモハモグリガ			
	第3世代 誘殺盛期	第4世代 防除適期	第4世代 誘殺盛期	第5世代 防除適期
2℃高い	7月16日	7月20日	8月4日	8月8日
平年並	7月17日	7月21日	8月5日	8月9日
2℃低い	7月17日	7月22日	8月7日	8月12日

起算日:モモハモグリガ第3世代6月26日、第4世代7月17日  
(演算方法は三角法)

表4 果樹研究所における防除時期の決定(令和4年7月14日現在)

今後の気温予測	ナシヒメシンクイ			
	第2世代 誘殺盛期	第3世代 防除適期	第3世代 誘殺盛期	第4世代 防除適期
2℃高い	7月18日	7月24日	8月10日	8月16日
平年並	7月18日	7月26日	8月13日	8月20日
2℃低い	7月19日	7月28日	8月17日	8月25日

起算日:ナシヒメシンクイ第2世代6月22日、第3世代7月18日  
(演算方法は三角法)

## 6 生育調査結果（7月15日現在、果樹研究所）

### （1）モモ

<p><b>ア 新梢生長（満開後90日）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あかつき」の新梢長は22.7cm（平年比163%）、展葉数は19.1枚（平年比121%）、葉色は43.0（平年比96%）。</li> <li>・「ゆうぞら」は、新梢長が18.7cm（平年比121%）、展葉数は17.0枚（平年比112%）、葉色は44.3（平年比98%）。</li> <li>・新梢停止率は「あかつき」で57.5%（平年比64%）、「ゆうぞら」で60.0%（平年比67%）。</li> </ul>
<p><b>イ 核障害（満開後85日）（表5）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あかつき」では、<b>核頂部亀裂が50.0%、縫合面割裂は45.0%と平年に比べ多い。</b></li> </ul>
<p><b>ウ 収穫状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「はつひめ」の収穫盛期は7月8日で平年より1日早く、昨年より5日遅くなった。果実の大きさは304gで平年より大きく、糖度は13.2度で平年より高くなった。</li> <li>・「日川白鳳」の収穫盛期は7月5日で平年より11日早く、昨年より1日遅くなった。果実の大きさは236gで平年並、糖度は12.6度で平年より高くなった（表6）。</li> </ul>
<p><b>エ 発育予測</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DVRモデルによる「あかつき」の発育予測では、今後の気温が平年並に推移した場合、収穫開始日は7月30日ごろで平年より1日早く、収穫盛期日は8月2日ごろで平年より2日早い見込みである。</li> <li>・<b>本年は「あかつき」で核障害の発生が多いことから、収穫期がさらに前進する可能性があることに注意する。</b></li> </ul>

表5 ももの核障害発生状況（品種：あかつき）

（単位：％）

年	満開後日数	30日	45日	50日	55日	60日	65日	70日	75日	85日	95日	収穫果
2022	核頂部亀裂	20.0	45.0	5.0	55.0	35.0	45.0	30.0	25.0	50.0	-	-
	縫合面割裂	0	0	0	5.0	10.0	45.0	50.0	55.0	45.0	-	-
2000 ～2020	核頂部亀裂	35.1	37.1	45.5	51.9	53.3	50.7	49.1	42.9	48.1	49.3	48.8
	縫合面割裂	0	0	1.7	2.4	11.4	22.1	23.0	21.9	32.6	36.8	24.6

表6 ももの収穫状況

品種	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			果実重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
はつひめ	7/4	7/6	6/28	7/8	7/9	7/3	7/12	7/13	7/8	304	264	298	13.2	11.8	11.4
日川白鳳	7/1	7/13	6/30	7/5	7/16	7/4	7/7	7/20	7/8	236	236	231	12.6	11.0	11.3
暁星	未	7/21	7/12	未	7/25	7/15	未	7/29	7/19	未	221	214	未	13.0	12.9
ふくあかり	未	7/21	7/12	未	7/27	7/18	未	7/31	7/21	未	266	286	未	13.0	12.9
あかつき	未	7/31	7/21	未	8/4	7/24	未	8/9	7/29	未	269	298	未	13.0	13.8

注) 平年値は、1991～2020年（「はつひめ」「ふくあかり」は2009年～2020年）の平均

## (2) ナシ

### ア 新梢生長（満開後80日）

- ・「幸水」の予備枝新梢長は110.4cm（平年比98%）、不定芽新梢長は110.0cm（平年比112%）。予備枝新梢の葉枚数は30.5枚（平年比100%）。予備枝新梢伸長停止率は50.0%、不定芽新梢伸長停止率は65.0%。
- ・「豊水」の予備枝新梢長は89.6cm（平年比84%）、不定芽新梢長は85.8cm（平年比95%）。予備枝新梢の葉枚数は25.8枚（平年比89%）。予備枝新梢伸長停止率は91.7%、不定芽新梢伸長停止率は97.9%。

### イ 発育予測（7月14日現在）

- ・DVRモデルによる「幸水」の発育予測では、今後の気温が平年並に推移した場合、収穫盛期日は8月26日頃で平年より3日早い見込み。

### ウ 裂果発生状況

- ・「4 栽培上の留意点（4）ナシ」参照。裂果が平年より遅くなった要因としては**新梢の止まりが平年より遅かったことが考えられる。**

## (3) ブドウ

### ア 新梢生長（満開後70日）

- ・「巨峰」の着色開始期は、7月14日で平年より6日早くなった。
- ・「あづましずく」の着色開始期は、7月11日で平年より5日早くなった。